

JICCPAによる解説動画「KAMとは」

JICCPAは、2019年5月9日から、約3分のKAM解説動画⁽²⁾を公開している。短い動画であるが、とてもわかりやすい。モバイルから

でも視聴できるので、通勤の時に見てほしい。

⁽²⁾ <https://jicpa.or.jp/news/information/2019/20190509hbzhtml>

廣川 朝海(ひろかわ・あさみ)
PwCあらた有限責任監査法人
品質管理本部 パートナー
公認会計士
2008年から2年間、公認会計士・監査審査会に転籍し、検査官兼審査検査室長補佐として従事。

第2章

自社ビジネスやリスクをもう一度振り返る 経営者・CFO・経理担当者 のKAM対応のポイント

PwCあらた有限責任監査法人
公認会計士

廣川 朝海

【この章のエッセンス】

- 有価証券報告書の作成責任は経営者であり、外部への説明責任が今までよりも重要になる。
- 監査報告書が3月決算であれば、2020年3月から構成とページ数がまったく変わることになる。
- KAMは、監査報告書のなかに含まれ、監査人が記載する。
- 監査人は、KAMの内容については、監査役等とコミュニケーション

- をとる必要があるが、経理担当者や、CFOとも議論する。
- 会社を監査人とともにビジネスや、それに伴うリスクを今一度振り返ってみる。

経営者のKAM対応

有価証券報告書の作成責任は経営者にあるのは、従前どおりである。しかしながら、監査報告書にKAM

を記載することにより、会社の経営方針や、会計方針で重要なものが記載されることになる。会社のなかで、実際に有価証券報告書を作成する経理部や、CFO、監査人とKAMについての報告を受ける監査役等とより深いコミュニケーションをとることが重要である。

また、KAMを監査人が記載するにあたり、KAMは監査役等に報告する事項というものの、当然に経理部、CFOおよび経営者とも議論

をするのが通常である。その際、有価証券報告書等に開示が必要なことがあり、会社の実態を示すためにどのような開示するのがベストなのかということは今一度考えていただく必要がある。

開示されるのは、必ずしも有価証券報告書の記載だけではなく、経営者からのメッセージ等からも伝わることもあり得、会社についての方向性やガバナンスについて、幅広い報告を外部に向かってしていただくことが望まれる。

CFO・経理担当者のKAM対応

CFO・経理担当者のKAM対応であるが、基本的には第1章に記載したことを理解していただきたい。しかしながら、有価証券報告書を作成し、スケジュールの管理など実質的なことを担当する方にとっての留意事項は次のようになるのではないかと思う。

(1) 年間のスケジュールを立てる

特に初年度は綿密なスケジュールを立てたほうが無難である。海外子会社往査や、国内の工場往査を例年